

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

味方		
居宿		
大倉		
大倉新田		
山王		
山王新田		
七穂		
西白根		
吉江		
吉田新田		

●位置図

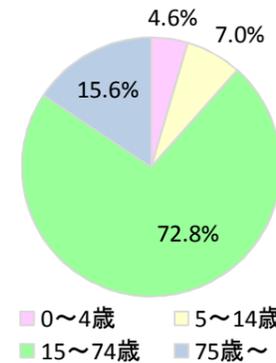


●施設・団体

市役所・区役所等	味方出張所	
警察・消防	味方駐在所	
消防団	南方面隊 味方白根分団・味方分団・味方七穂分団	
水防倉庫	七穂、西白根	
一時避難場所	居宿農村公園、大倉児童公園、七穂農村公園、吉江児童遊園地、味方第2農村公園、味方出張所駐車場、味方第1農村公園、味方児童館駐車場、白根第1農村公園、白根第2農村公園、五軒茶屋児童遊園地、千日児童遊園地	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園	あじほ保育園、にししろね保育園
	高齢者福祉施設	常盤園
	障がい者福祉施設	—

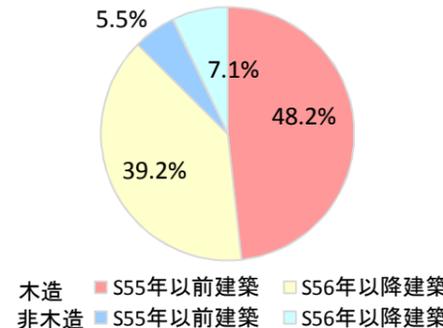
●人口

総人口	4,329人	地区の割合	市の割合
0～4歳	198人	4.6%	4.0%
5～14歳	304人	7.0%	8.5%
15～74歳	3,150人	72.8%	74.6%
75歳～	677人	15.6%	12.9%
65歳以上人口	1,210人	28.0%	26.0%
世帯数	1,332世帯		
一世帯あたり人口	3.3人/世帯		2.5人/世帯
人口密度	297人/km ²		1,108人/km ²
昼間人口	3,288人	夜間の76.0%	



●建物関連指標

総棟数	3,075棟	地区の割合	市の割合
木造	S55年以前建築	1,483棟	48.2%
	S56年以降建築	1,205棟	39.2%
	計	2,688棟	87.4%
非木造	S55年以前建築	168棟	5.5%
	S56年以降建築	219棟	7.1%
	計	387棟	12.6%
S56年以降建築物	1,424棟	46.3%	52.4%



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]味方小学校	0.6	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]味方中学校	1.0	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]七穂公民館	0.6	1	○	—	×	—
[ヒ]味方出張所	1.7	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]老人福祉センターいこいの家 楽友荘・南区味方健康センター	1.1	1	○	—	×	—
[ヒ]味方公民館	1.3	1	○	—	×	—
[ヒ]味方体育館・味方地区公民館	1.4	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]西白根公民館	1.4	1	○	—	×	—
[ヒ]味方地区千日運動施設	1.6	1	○	—	×	—

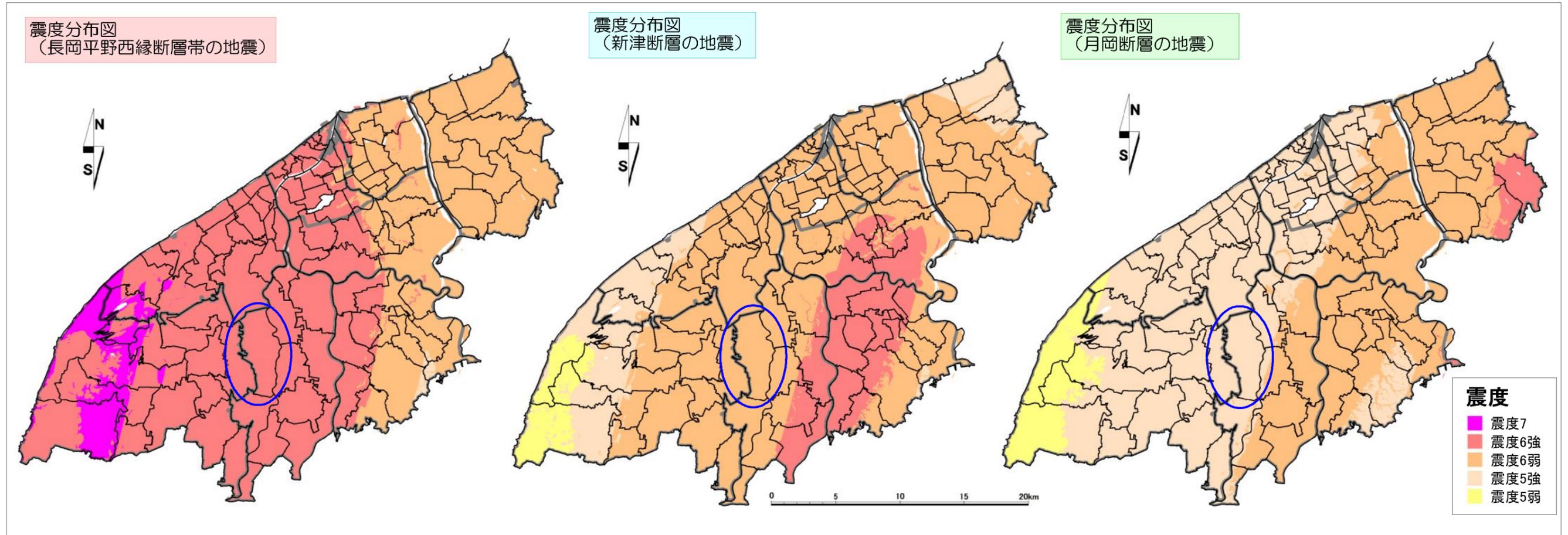
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]根岸小学校	1.2	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]根岸地域生活センター	0.7	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]白根小学校	1.3	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]白根保育園	1.3	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]白根児童センター	0.5	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]白根地域生活センター	0.9	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]諏訪木保育園	2.6	2	○	—	2階以上	—

避難の可否:「—」はそれぞれの災害で避難の対象外、津波で「×」の施設は、津波避難の対象外かつ津波浸水の危険性がある。

●災害危険性の評価

津波・地震	地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性はある。 津波の浸水は、地区西部の低地で想定されている。
水害・土砂	中ノ口川の洪水、大河津分水路の洪水及び新川・大通川流域の洪水によって、地区の広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

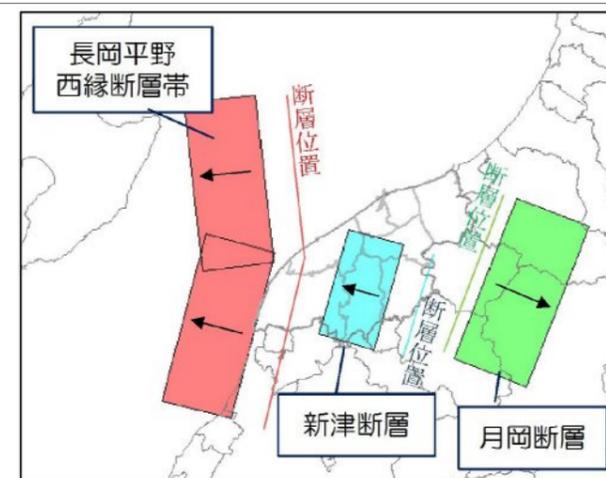
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

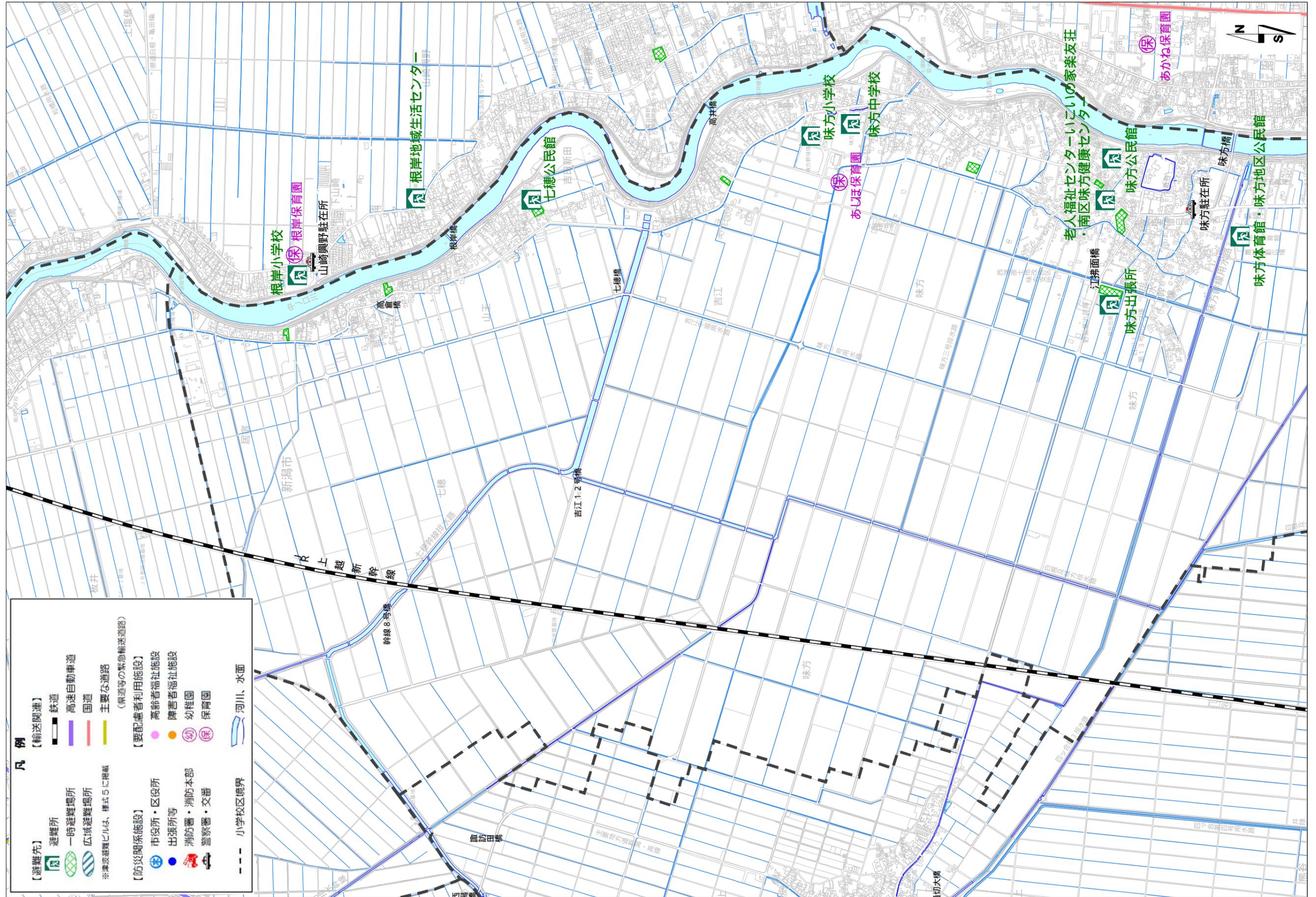
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

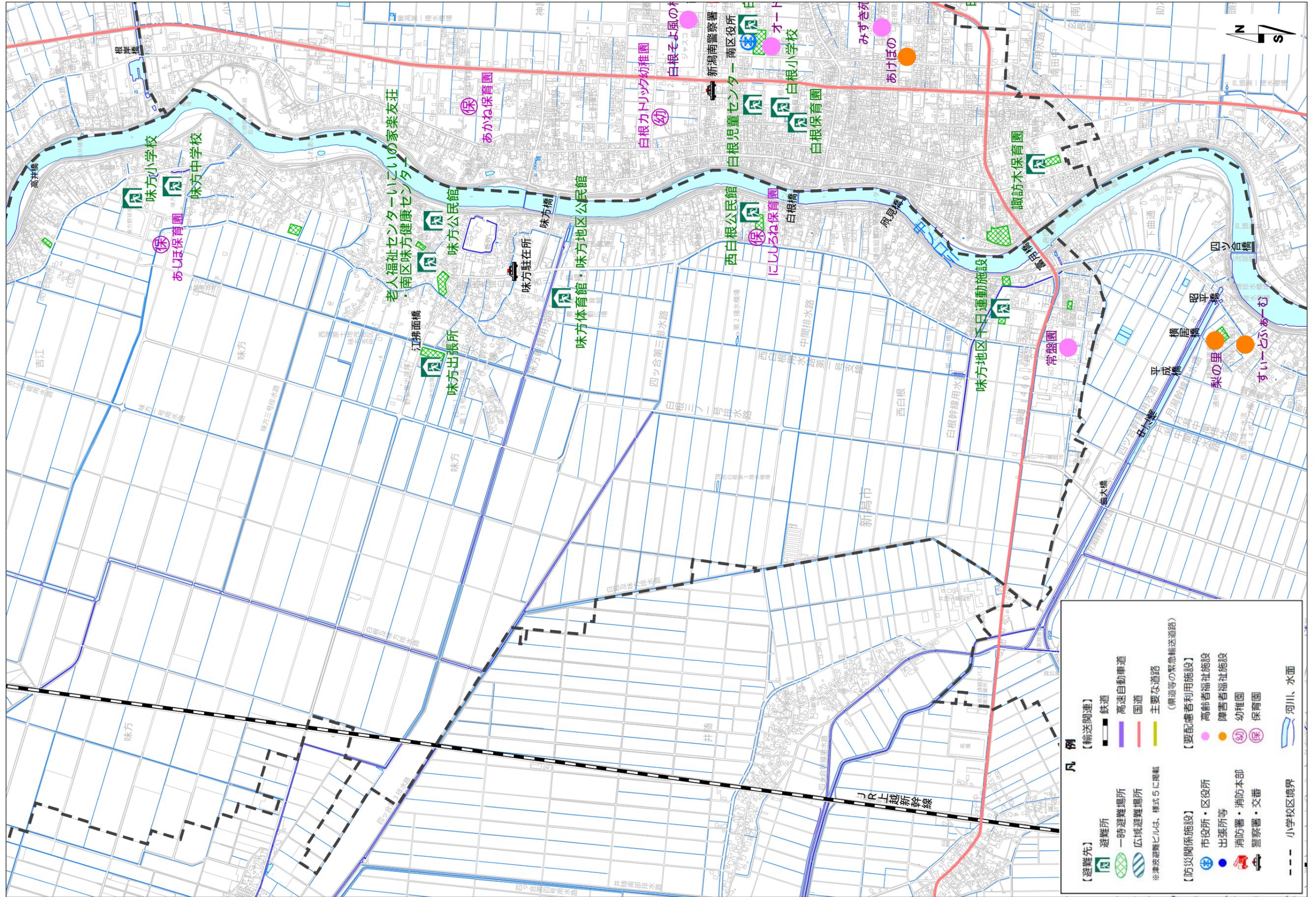
<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

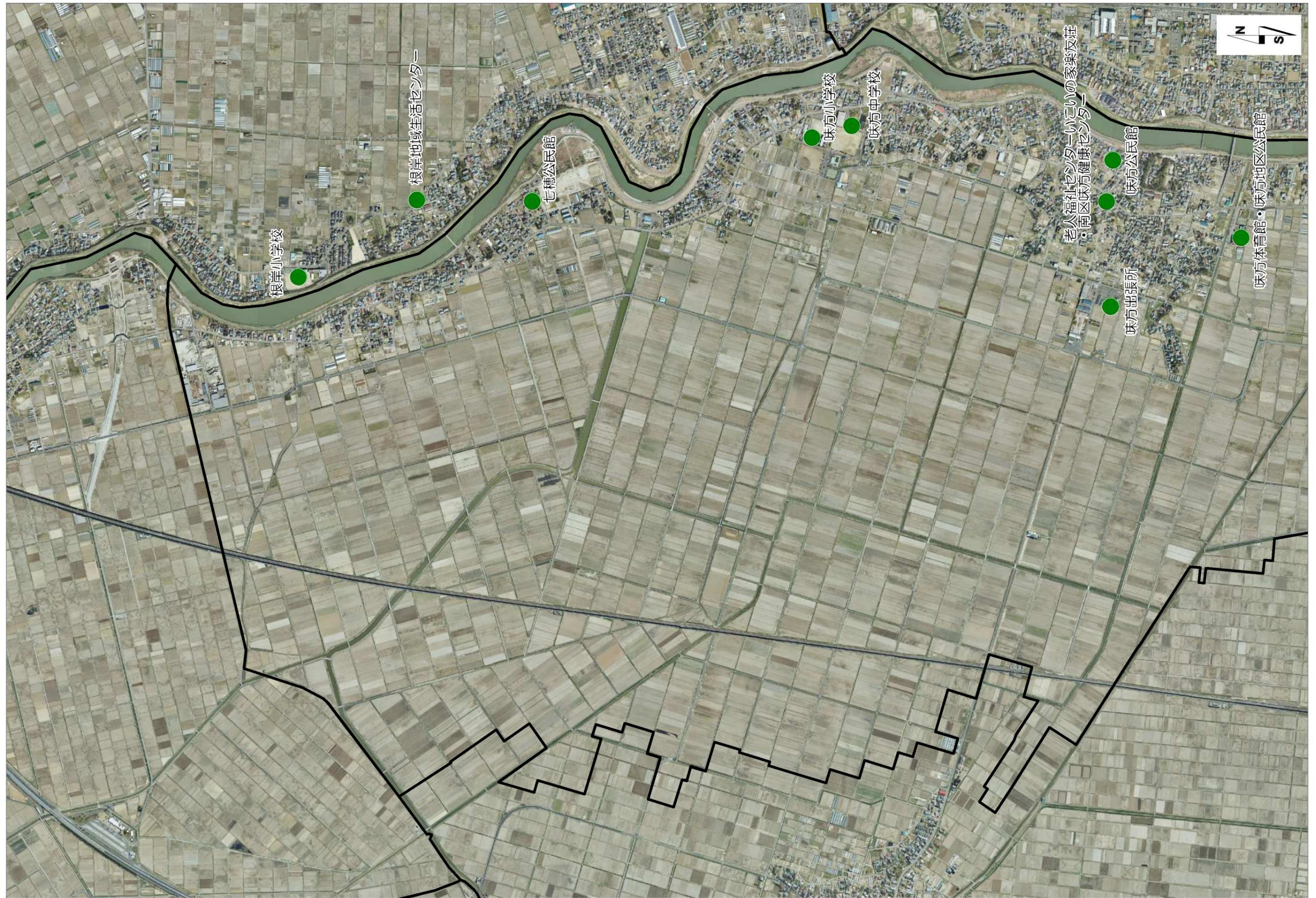
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

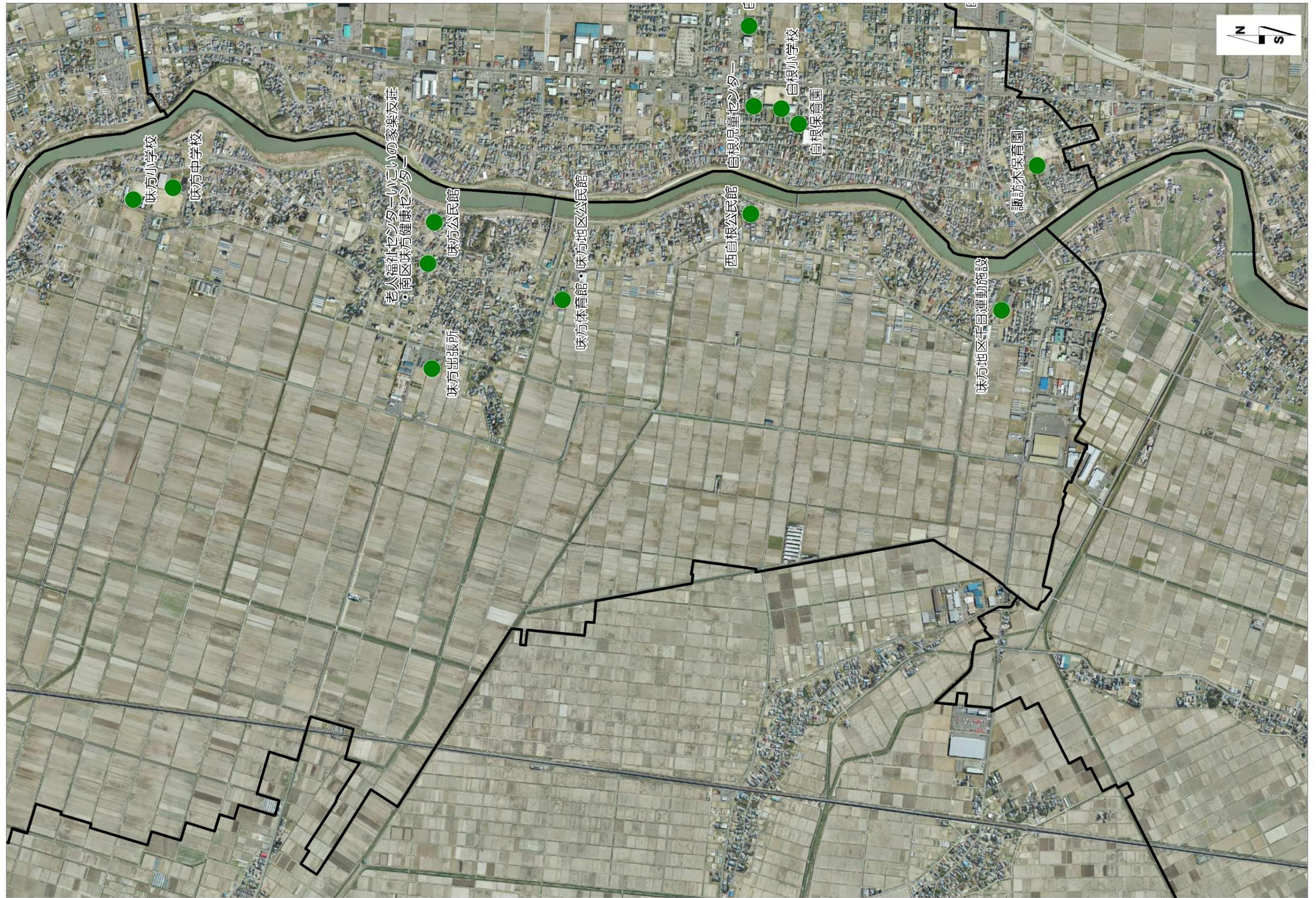


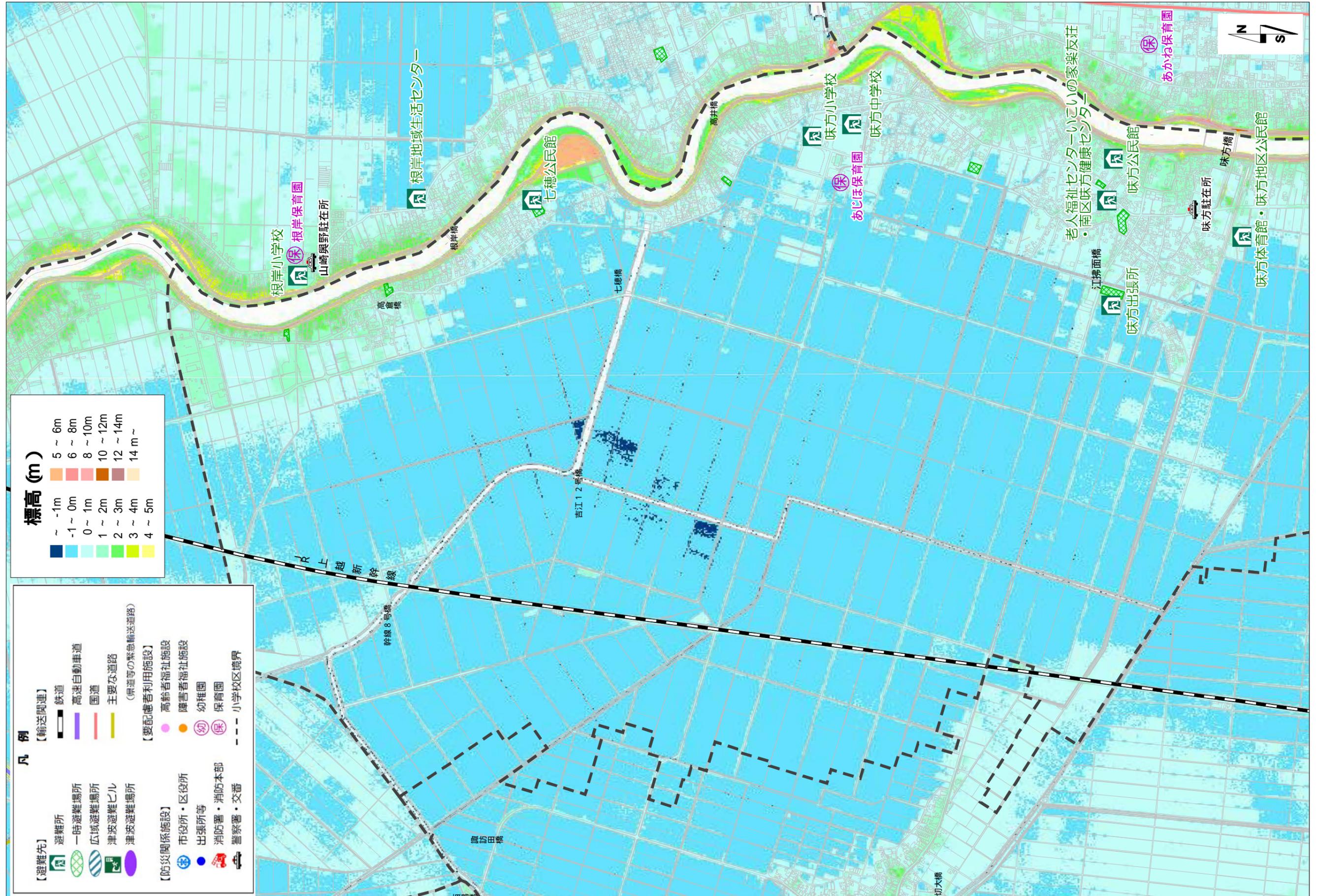
← は、断層の傾きを示しています。





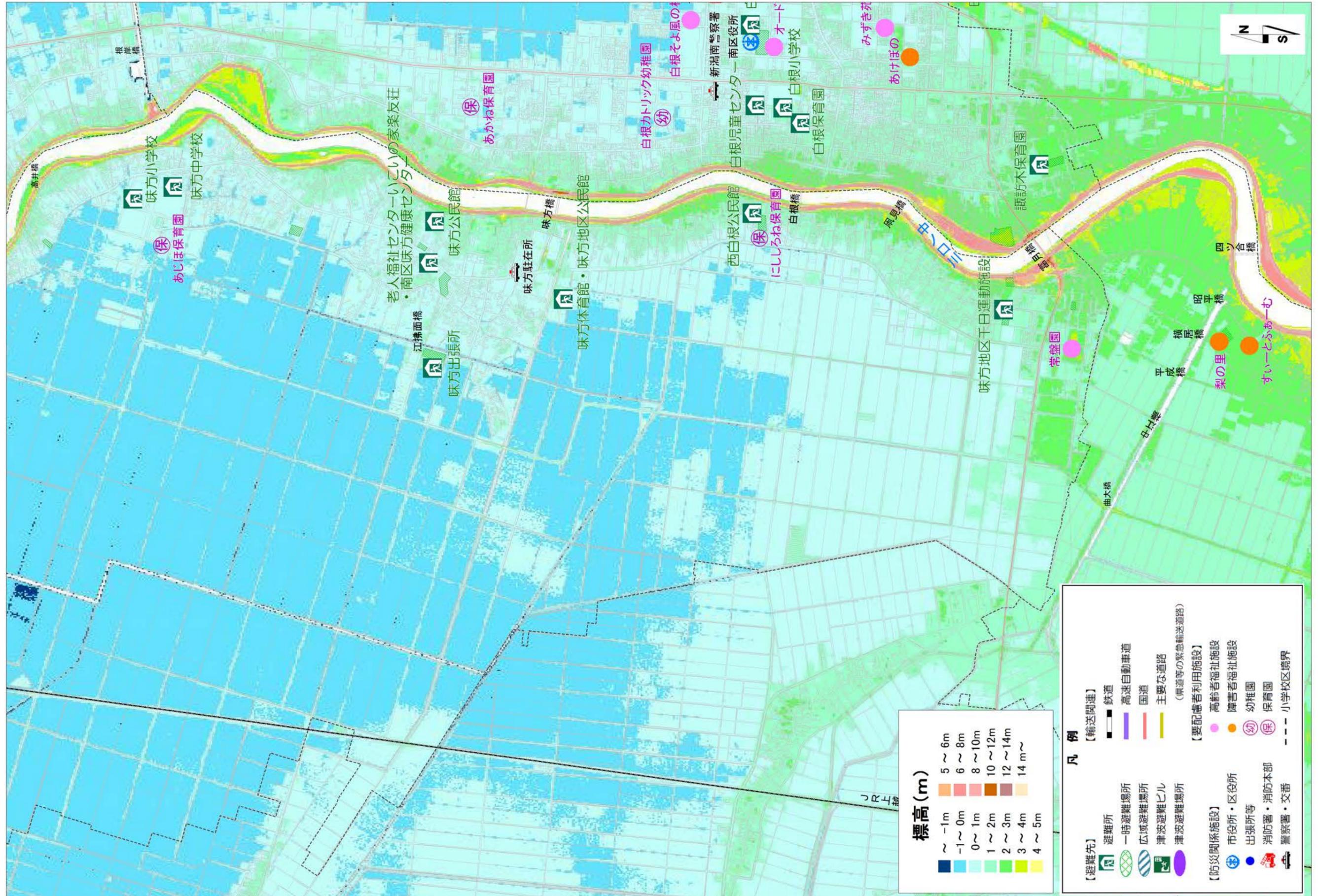




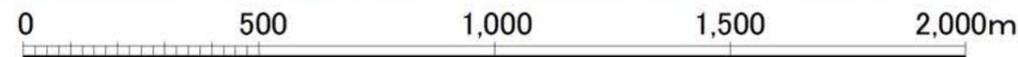


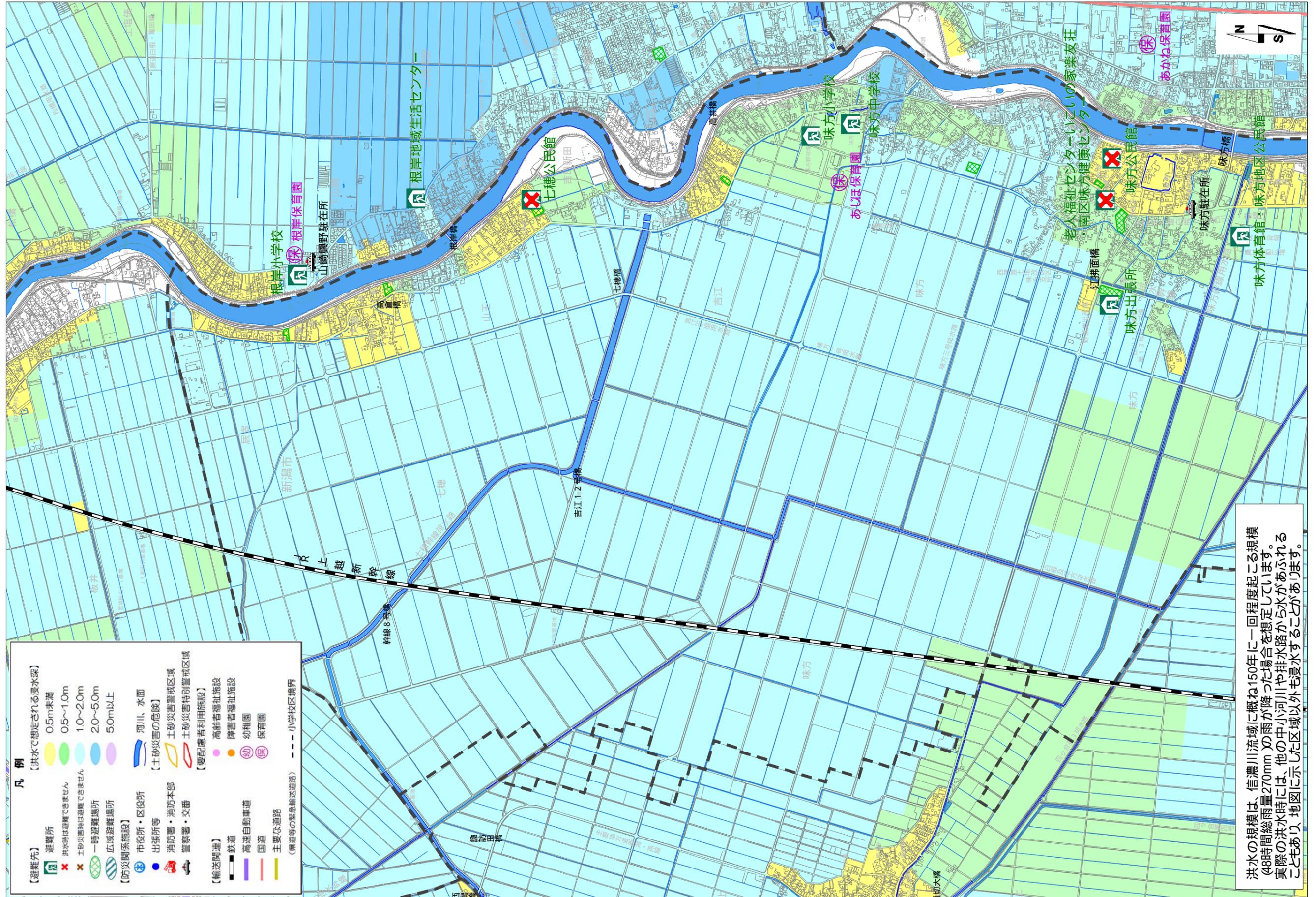
【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)

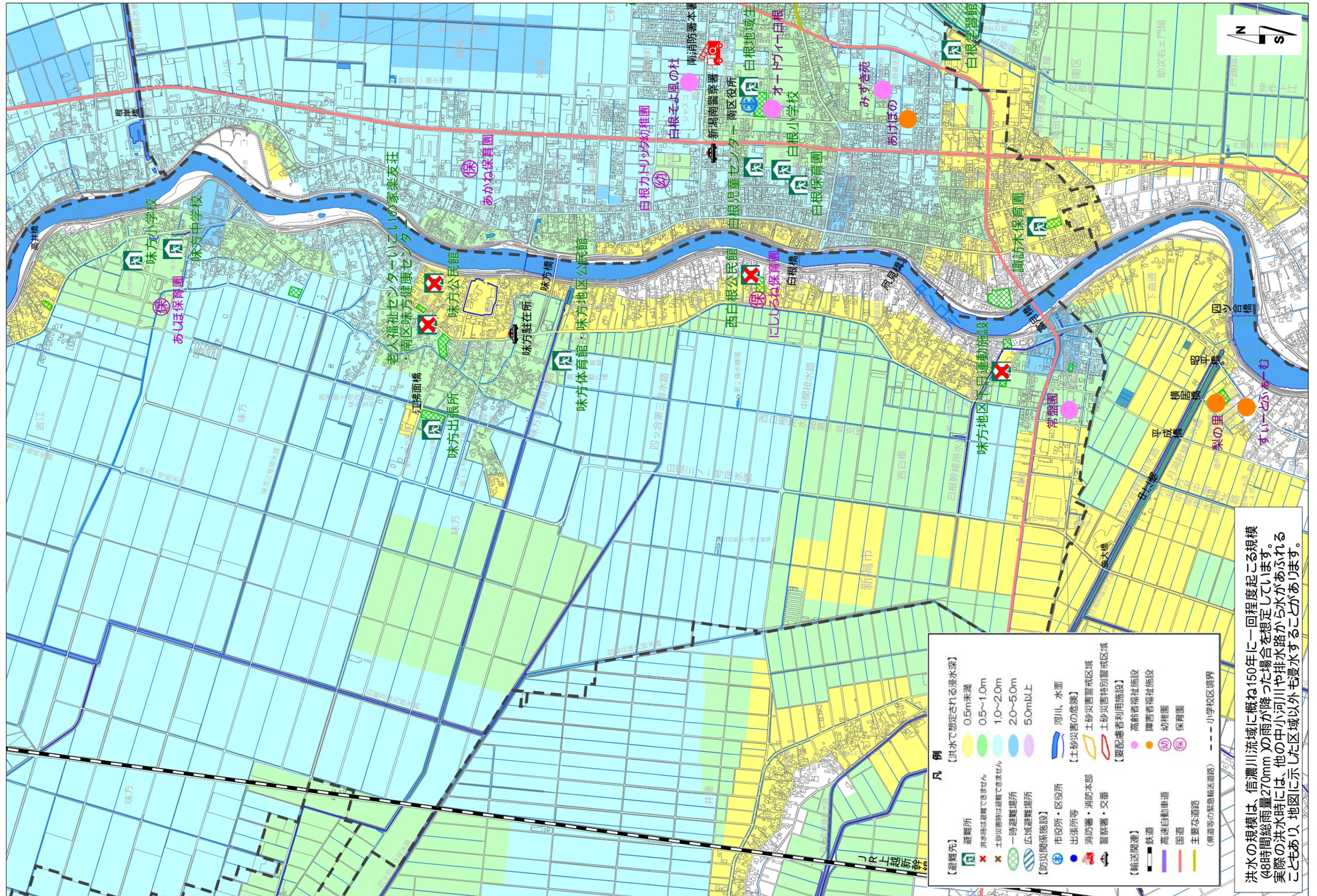




[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年, 平成25年, 平成26年)
5mメッシュDEM(国土地理院, 平成25年)

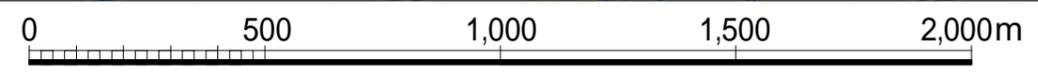


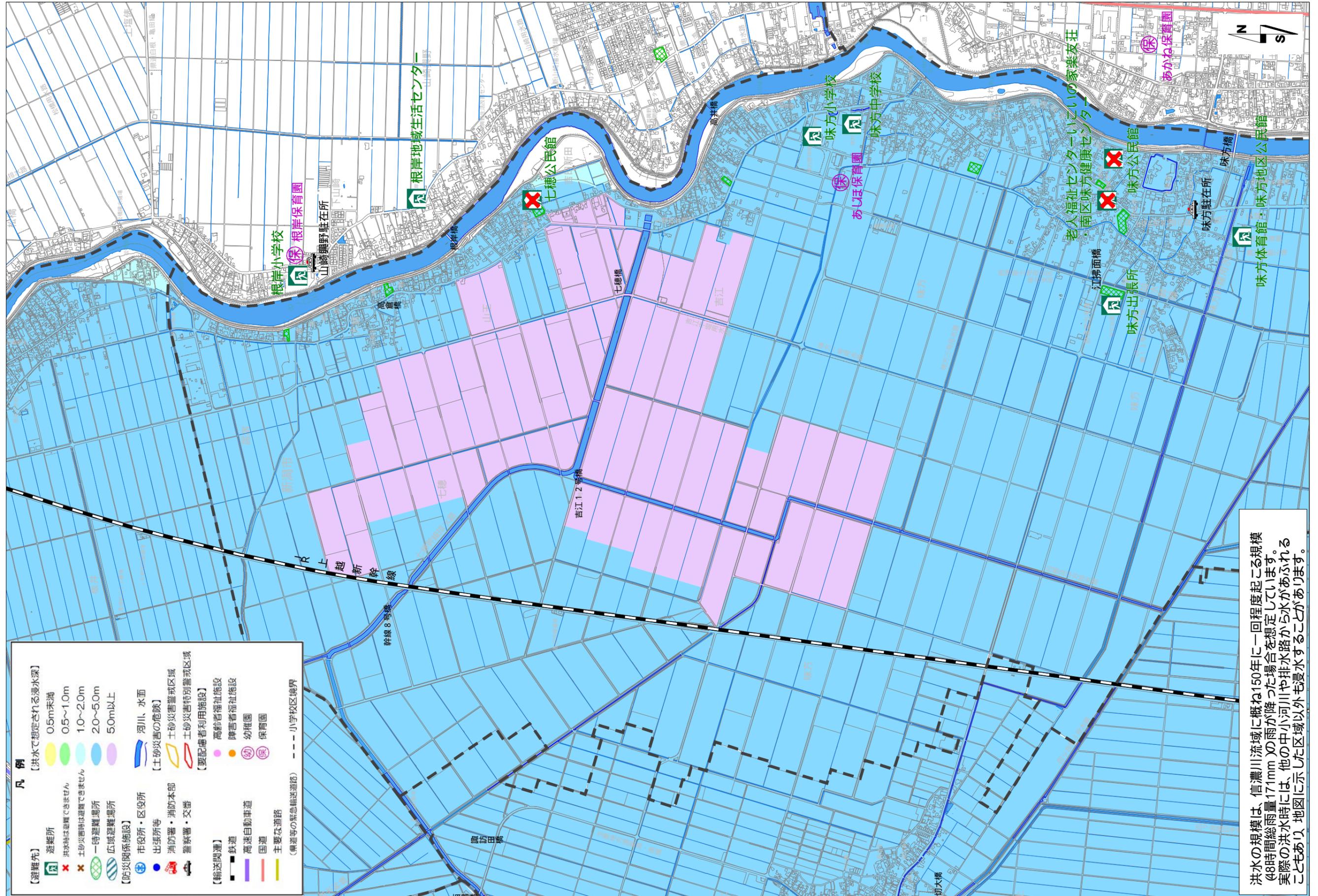




洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(8時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

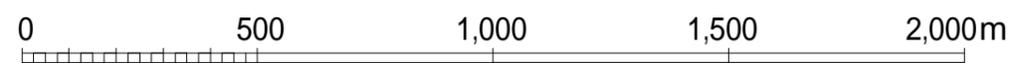
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)

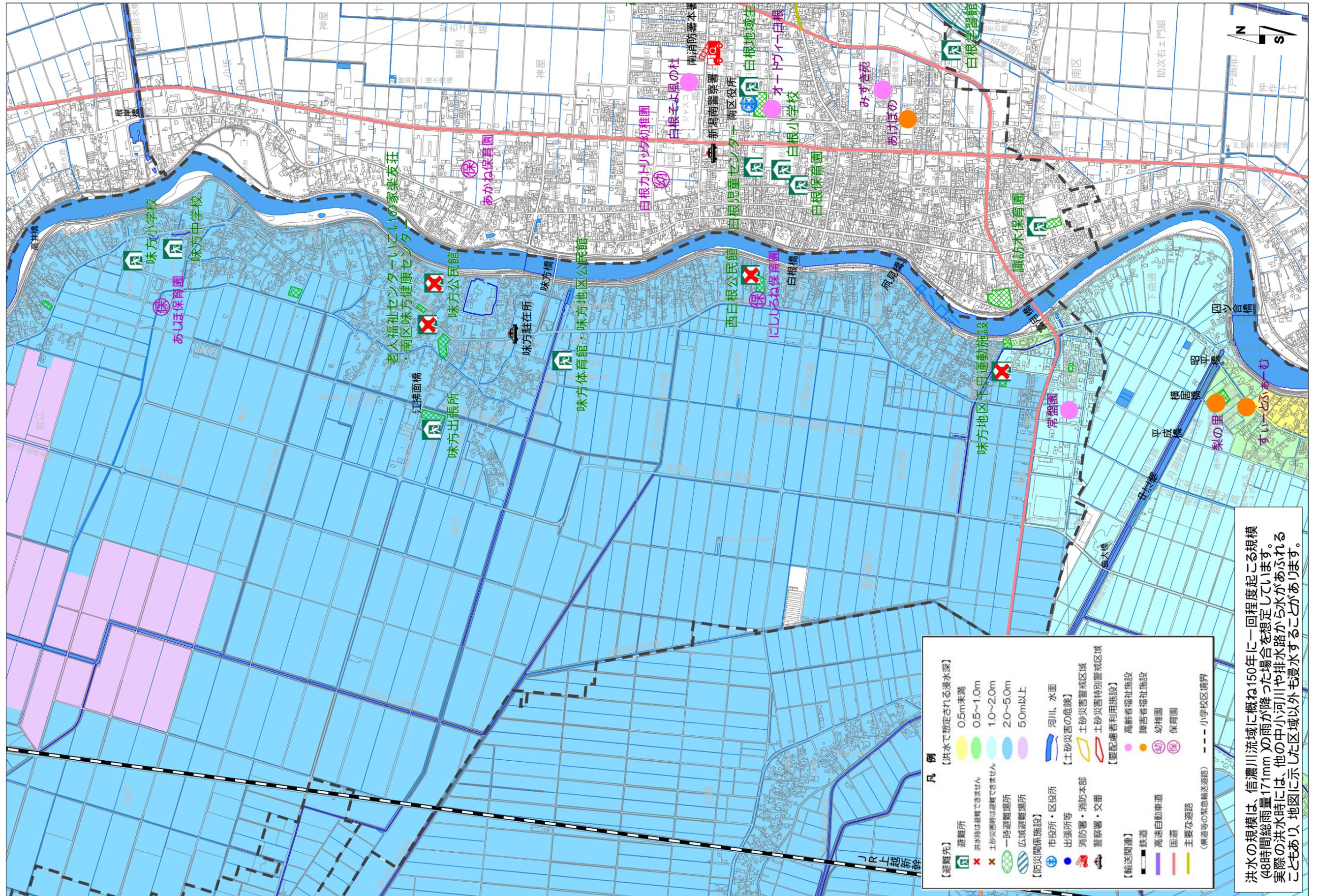




洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模 (48時間総雨量171mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外にも浸水することがあります。

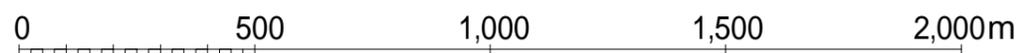
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年,平成25年,平成26年) 大河津分水路浸水想定区域 (国土交通省,平成14年4月30日)

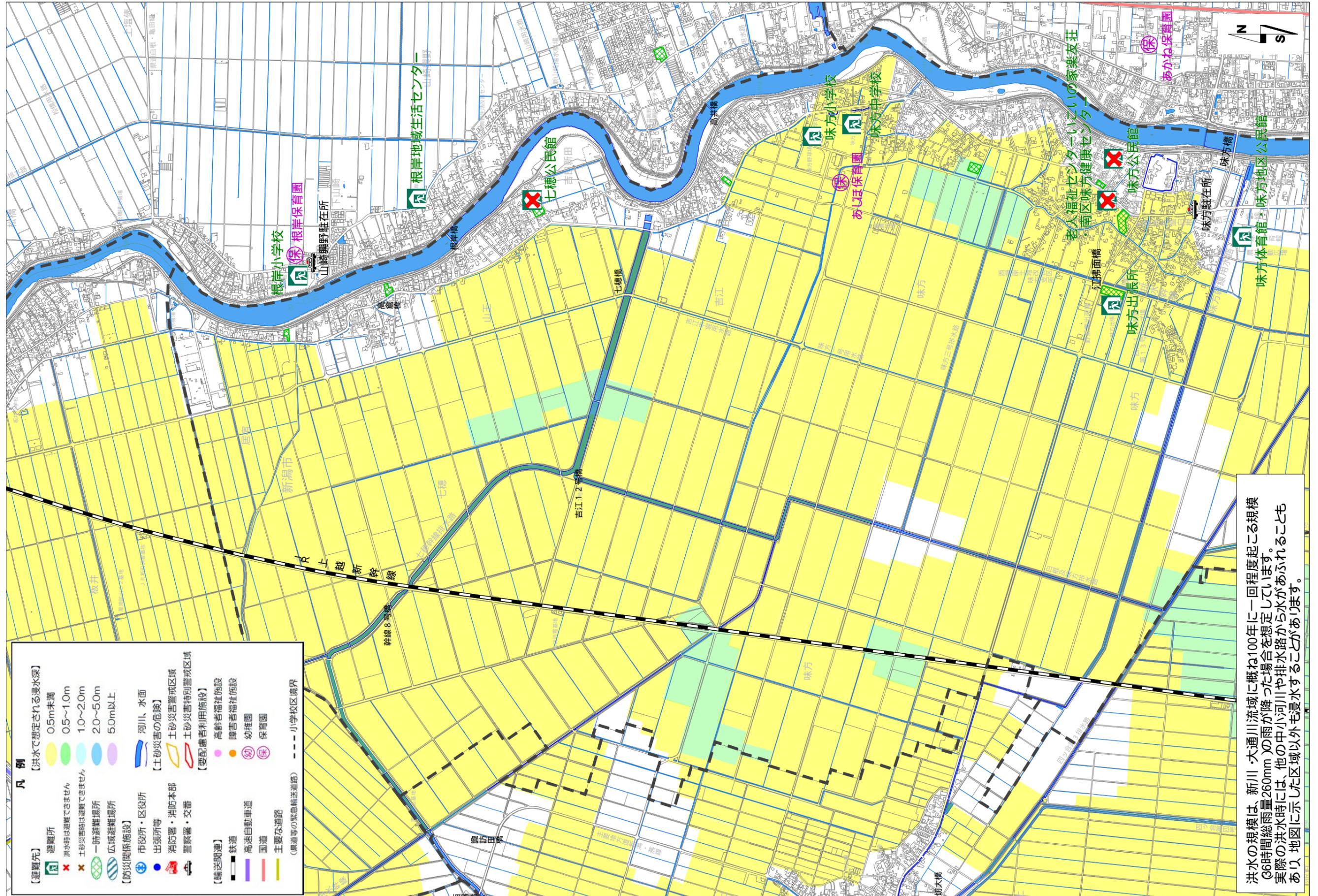




洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(8時間総雨量171mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

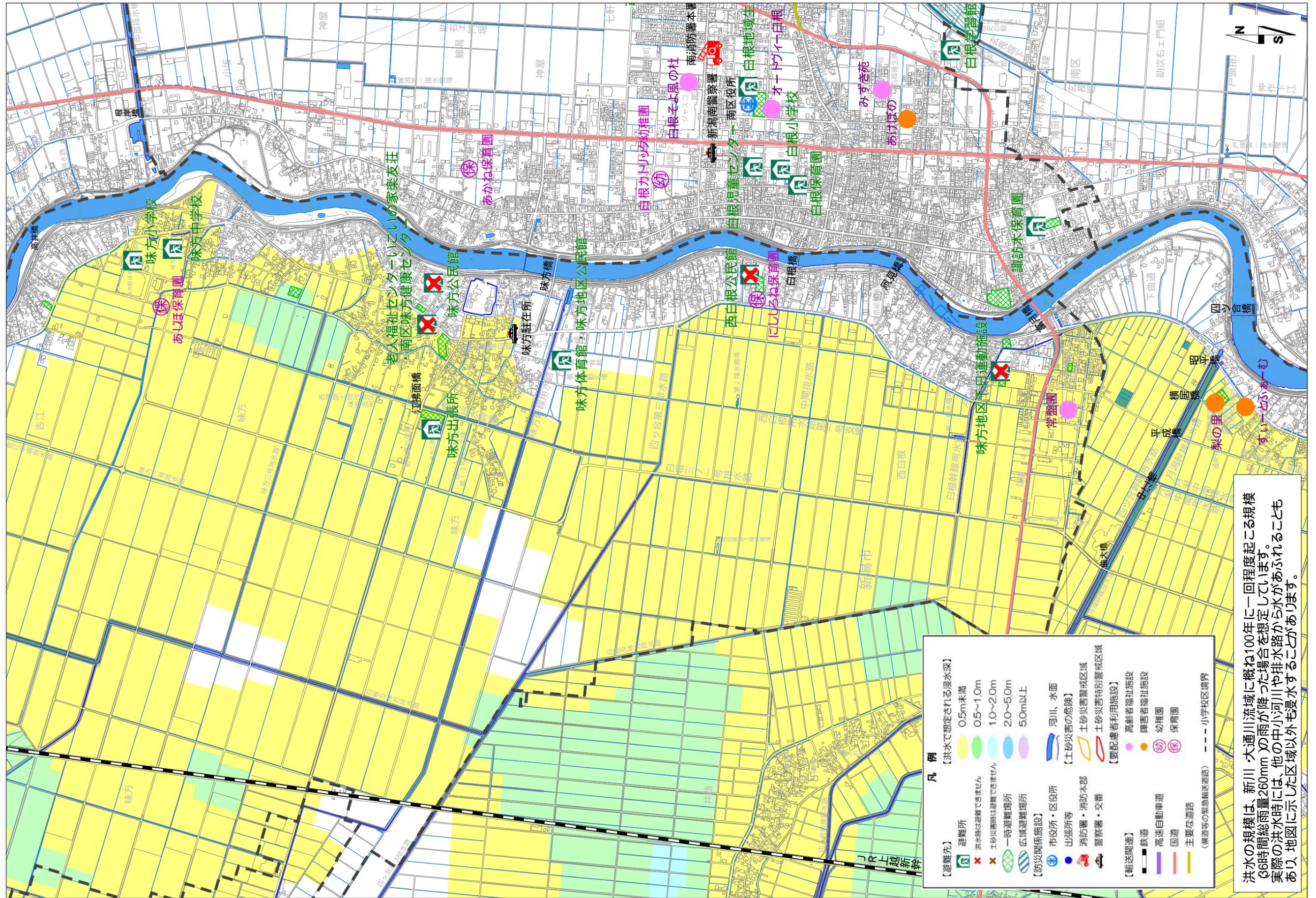
[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 大河津分水路浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)





【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域（新潟県、平成20年2月26日）

洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模
 6時間総雨量260mmの雨が降った場合を想定しています。
 実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれること
 あり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。



洪水の規模は、新川・大通川流域に概ね100年に一回程度起こる規模 (6時間総雨量260mm) の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年、平成25年、平成26年) 新川・大通川・広通川・西山川・大通川放水路浸水想定区域 (新潟県、平成20年2月26日)

